

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style [ビズスタ仙台]

2017 12

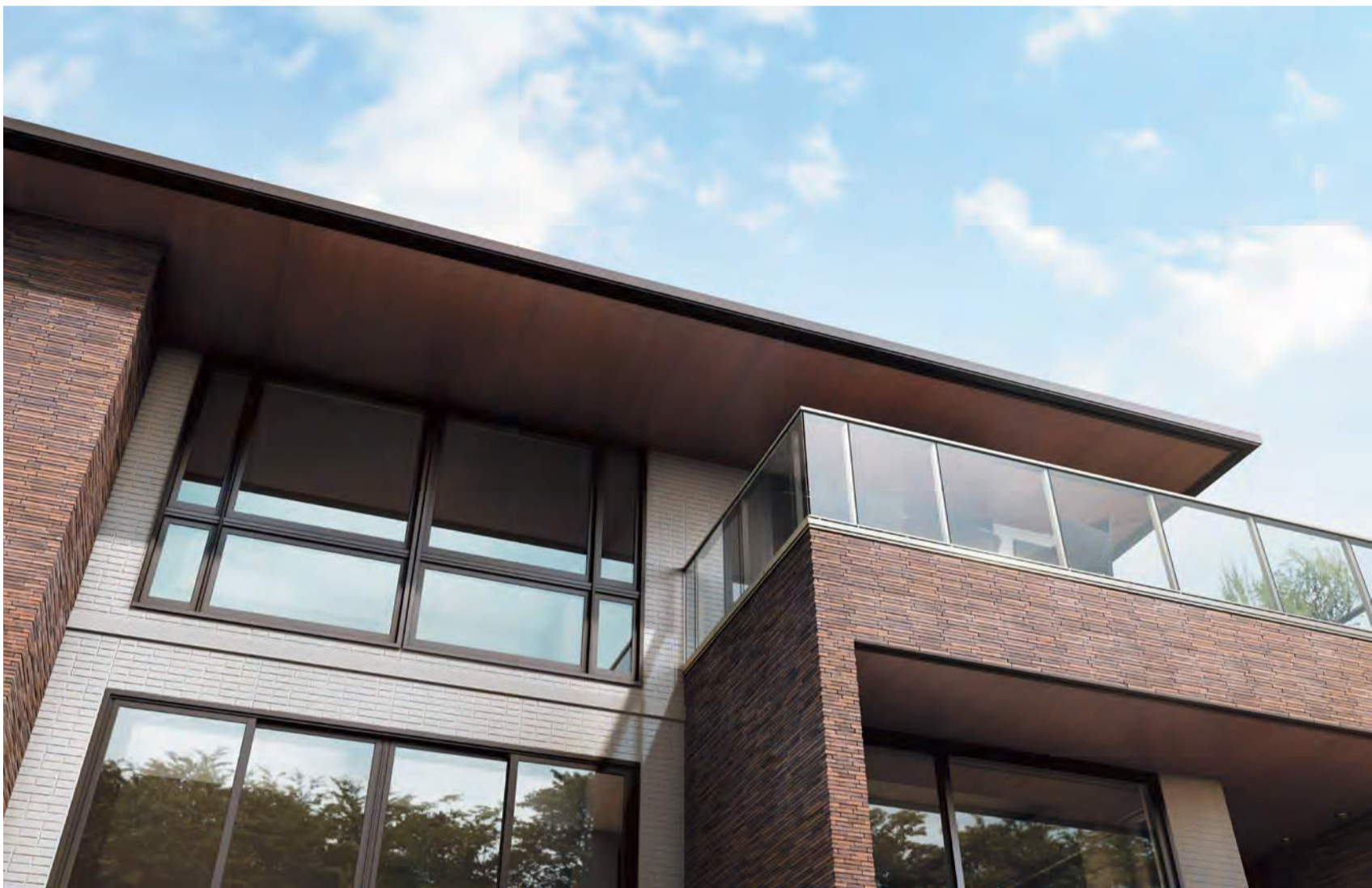
特別版

『Biz Life Style』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都・滋賀、仙台、福岡、広島にて62万部発行。下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.022-716-1711 FAX.022-716-1710
<http://www.dac-group.co.jp>

企画・制作/株式会社ディリー・インフォメーション東北支社
〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央2-9-27 プライムスクエア広瀬通14F
© 2017 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



「豊田喜一郎」が描いた「理想の住まい」を極める、もうひとつのメイドインジャパン。

71年前、「あの夏の誓い」から始まったトヨタの技術の挑戦。

トヨタホーム黎明期編

なぜトヨタは「家」を作り始めたのか

今や世界でも指折りの企業へと成長したトヨタ自動車。技術立国・日本を象徴する存在だが、同社の技術は自動車だけでなく「住宅」にも発揮されていることをご存じだろうか。

1945年8月15日。トヨタ自動車工業(現トヨタ自動車)社長豊田喜一郎は、名古屋市内八事の南山農園で終戦を迎えた。名古屋は度重なる空襲を受け、名古屋城、名古屋東照宮、名古屋駅などが軒並み炎上。街は壊滅的な被害を負った。

全国各地で200万戸を超える住宅が焼失し、各主要都市は更地同然の焼け野原に。赤坂にあった自身の居宅も焼け落ちた喜一郎は、人々の食料確保に奔走しつつ、強い思いを抱く。

「燃える家ではダメだ。人は誰でも皆、ある定水準以上の住宅に住むべきだ」

実業家である以上、国や産業の復興は当然のこと。だが、それ以上に、家族とその暮らしを護れる環境を作ることが何よりも急務。そんな喜一郎の精神を今に

受け継ぐのが、ハウスメーカーの「トヨタホーム」だ。

1933年、豊田自動車機械製作所(現豊田自動織機)内の一部署として誕生したトヨタ自動車。高度成長期から現代まで常に発展し、現在では多種多様な関連会社を抱える世界的な企業グループへと成長している。日本のモノづくりの代表として、失敗を恐れず、妥協を許さない徹底した品質重視を貫く姿勢は有名だが、トヨタホームは、自動車に次ぐ第二の戦略事業である住宅事業を担っている。

地元の愛知県では17年連続販売戸数一位という圧倒的強さを誇る同社は、鉄骨構造の住まいを得意とする。これは、喜一郎が描いた「燃えない家」の原点であると同時に、終戦翌年から着手した「フレコン住宅」を祖とする独自の発展形でもある。自動車製造で蓄えた鉄への膨大な知見と設計加工技術を武器に、浮沈を繰り返すハウスメーカー各社と一線を引くかのような着実な歩みを重ねてきた。

豊田喜一郎が願った「人を護れる家」は、70年余の中で自覚ましい躍進を遂げた。それは、自動車に続く「もうひとつのメイドインジャパン」なのだ。



頑固一徹の品質管理に柔軟な事業姿勢で「メイドインジャパン」の代名詞となった「トヨタ自動車」の創業者、豊田喜一郎。「トヨタ」があまりにも有名になってしまったが、実は姓は「とよだ」と読む。

宮城・福島の2エリアで着実に実績を伸ばしているトヨタホームとうほくの「強み」とは。中面にて詳しくご紹介!

My Favorite Life Style

トヨタホームの家づくり ~技術・テクノロジー編



世界を制した「トヨタの鉄」が
いま、住まいづくりで開花した。

自動車から住まいの分野へ
トヨタグループの鉄への知見と技術

住まいづくりを極めるためにまず、鉄を極める。

同社は、日本の住環境に「大空間」という新たな提案を持ち込んだ企業として認知されている。

なぜ「トヨタの鉄」は強いのか

ライフスタイルの変化に伴い、私たちは「LDK」の固定観念から脱却しつつある。その好例が、かつては夢物語だった「大空間」の住まいだ。壁や柱の存在に邪魔されることがなく、広く伸びやかな生活シーンを描きたい。そんな素朴な願いを実現するには、実は非常に高度な技術を要する。これを現実にするのが、トヨタホームの代名詞のひとつである独自の「鉄骨ラーメンユニット構造」なのだ。

単に空間を広げるだけでよいなら、取り立てて難しくもない。しかし、「そこに住まう」のであれば、住宅としての強度が必要となる。だが、広大な空間と家としての信頼性、「広さ」と「強さ」は互いに矛盾する要素でもある。これを解決し、共存させるのが、グループとして自動車分野で長く培ってきた「鉄」への知見となる。

構造体に鉄を使うには、鉄そのものの品質だけでなく、さまざまな課題が生じる。その典型が「防錆」だ。部位に応じた適切な対応が必要となるが、たとえば床下部分は季節によって高温多湿となるため、これを見越した処理を行わなければならない。素材を徹底的に知り尽くさなければ、ベストな方策は描けない。このあたりは、門外漢の私たちでも容易に想像できることだ。

トヨタホームでは、1階の床下部分に独自の「高耐久メッキ鋼板」を使用するとともに、自動車製造の過程で開発された技術である「カチオン電着塗装」を併用する。リン酸亜鉛被膜の2重処理を行うことで鉄骨の表面を保護し、一般的に不十分となりやすい鉄骨の裏や小さな部品までくまなく、徹底的に処理。こうした技術が、鉄本来の耐久性を引き出すわけだ。

トヨタ直系の徹底した生産方式「TOYOTA WAY」

トヨタと言えば、信頼性。いまやグローバルな常識となった背景には、確かな溶接技術も含めた伝統的な「鉄へのこだわり」がある。製品のみならず、その独特な生産方式まで広く認知されている企業は、世界的にも珍しいのではないだろうか。

「ムタムラムリ」を徹底的に排除し、不良品を後工程に流すことなく品質を徹底的に作り込む「よい品(しな)よい考(かんがえ)」。各工程が必要なものだけを流れるように停滞なく生産するための「ジャスト・インタイム」。そして、工場の中で確実に品質を作り込みつつ、後工程に

不良品を残さないよう、生産機械に人間の知恵を付与する「自動化」。グループの基本思想をベースにシステム化された「トヨタ生産方式」は、現代のモノづくりの背骨として機能している。自動車以上に大きな製品である「住まい」をつくるトヨタホームは、その代表的な存在と言える。大掃除さえ必要ないレベルに整理され、安定した生産環境があるからこそ、世界クラスの安心感を提供できるのだ。

「世界のトヨタ」のもうひとつの技術

耐火性能、耐候性能、耐震性能、そして環境性能。時代のトレンドに關係なく「強く快適な家」を目指してきた同社は、さまざまな独自の住性能を開発している。たとえば、「スマートエアース」は、快適性を空から考えるという独特の思想の集大成だ。平たく言えば近年流行の全館空調システムの一種なのだが、1階と2階を独立させて人がいない時は空調を弱めるなどフロアごとの管理が行える点が大きな特徴。これにより、ヒートショックを未然に防ぐに留まらず、エネルギーや光熱費の無駄の削減まで可能となる。

また、高捕集率の外気フィルタで有害物質をきめ細かく除去する機能もPM2.5にも対応しており、粒子の直径が1〜2μmなら、室内への飛散を実に1割以下※1にすることができるといふ。

※1：高捕集率外気フィルタはオプションです。

Biz Life Style Pick up >>> 高品質・高効率を極めるための生産環境

GOOD DESIGN 「シンセ・シリーズ」鉄骨ラーメンユニット構造受賞



トヨタホームの工場は、機械と人間の協働の見本のようだ。「剛接合」とまで呼ばれる溶接技術も、正確無比なロボットと専門技能道場を通して腕を磨いた技能者の「適材適所」で実現されている。



トヨタグループ17社のモノづくりのノウハウの集大成として。

トヨタホームの住まいには、健康で快適な環境づくり、エネルギー対策、車との連携、防犯対策など、トヨタグループの高い技術が活かされている。安心感の高い独特の構造は、トヨタホームの技術であると同時に、グループ17社のノウハウの集大成でもあるのだ。また、空間設計上の制限を受けにくい、リフォームの自由度も大きなポイント。鉄骨ラーメンユニット構造のメリットは、新築時だけでなく、将来にわたって享受できるわけだ。



品質をつくり込む、工場生産。

構造体や断熱材などの材料が雨などの影響で劣化することを防ぐため、住まい全体の約85%を工場内でつくる。工場内では作業環境を整備し、ムダを省くことで高品質の家づくりを可能にしているのだ。

My Favorite Life Style

トヨタホームの家づくり ~最先端のIoT導入編

SINCÉ feelas



太陽光発電
家庭内のHeMS及びトヨタスマートセンターとの連携によって、発電・蓄電・消費のすべてをコントロール可能とした先進のシステムとなっている。



ラ・ロックII (株式会社東海理化)
ドアハンドルにタッチするだけで施錠・解錠できる、自動車セキュリティ技術を応用した玄関電気錠。スマートフォンでの確認・施錠も可能だ。



スマート・エアーズ (株式会社デンソー)
トヨタホームオリジナルの全館空調システム。家の中の温度差を抑え、一年を通して快適な空気環境を提供。ヒートショックの軽減にも貢献。



トヨタスマートセンター (トヨタ自動車株式会社)
インターネットを通じた情報連携の拠点。住まいと自動車、そして家族をつなぎ、省エネ&省CO2の暮らしをサポートしてくれる。

エネルギーをかしこく、効率的に、快適に使う。 圧倒的な先進性を誇るトヨタホームのスマートハウス。

社会的な環境整備が進む「IoT(インターネット・オブ・シングス)」。身の回りのモノがインターネットに接続されることで遠隔制御を可能にするという概念で、「家に着いたらすでに室内に冷暖房が効いている」「子どもが学校から帰宅したことを外出先で確認できる」といったライフシーンが次々と実現している。

IoTの導入によって住宅や自動車のあり方は大きく進化しているが、両者を同時に牽引しているのが、ご存じトヨタグループだ。住宅ブランドである「トヨタホーム」では、すでに情報拠点「トヨタスマートセンター」との連携体制を整えており、スマートフォンなどを介した遠隔コントロール機能を続々と拡充している。戸締まりを忘れた時には外出先から施錠できたり、窓に異常を感じたら即座にメールで通知したり。自動車も含めてさまざまなライフサポート機能を有しているが、同社の「IoT」はさらに先へと進んでいる。

利便性だけに留まらない トヨタホームのスマートハウス機能

トヨタスマートセンターは、トヨタ自動車が開発した低炭素社会に向けた省エネルギーのトータルサポートを掲げる統合コントロールシステムだ。特にエネルギー消費の削減を無理なく目指せる点がポイントで、電力を「つくる」「ためる」だけでなく「かしく使う」ためのアシスト機能が充実している。

たとえば太陽光パネルなら、一般的に耐用年数は10年以上とされているが、経年劣化によって発電効率が徐々に低下することがある。トヨタホームの太陽光発電パネルは20年※2の長期保証付きの上に、発電・蓄電消費を蓄電池とHeMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)の連携で集中コントロール。また、日照量や

Biz Life Style Pick up >>>

トヨタホームの家は資産価値が
適正に評価される家



トヨタホームは、良質な中古住宅の流通を促す「スムストック」※4に取り組んでいる。60年の長期保証により残期間も保証されているため、建物の価値が適正な価格で評価され、住み替えが必要になった際も安心だ。

時間帯別の電気料金、電力需要などのデータをスマートセンターで収集しており、太陽光でつくった電気を消費しながら過剰電力を蓄電して日没後に配分する「地産地消」や、深夜電力を蓄電池に蓄えて翌朝などに消費する「おやすみ蓄電」など、さまざまなパターンを実現できる。

60年の長期保証※3が生むものとは

こつとした事業環境を実現できるのは、基礎研究の成果まで共有するトヨタグループの総合力があるからだ。グループ各社の努力と、自社独自の創意工夫が噛み合うからこそ、トヨタホームの家は実に60年という長期保証を実現できる。厳格に管理される同社の住宅履歴データは、家族にすぐれた資産を継ぐ礎となるだけでなく、良質な中古住宅の流通を促す原動力ともなっている。

※2 一部15年保証 ※3 60年長期保証は、トヨタホームをご購入の「アトリスプラン60年長期保証制度」対象のお客様のみのサービスとなります。60年長期保証は「初期保証+保証延長」の合算期間で保証の延長には、ご契約されたトヨタホーム販売店が実施する定期的な点検と適切なメンテナンス・補修が必要となります(付帯設備については、定期的なメンテナンス対象部材ではありません)。保証期間や内容の詳細についてはスタッフにお問い合わせください。 ※4「スムストック」とは、住宅履歴データを有した、長期点検・補修制度に守られている、優れた耐震性能を持った住まいのことです。

My Favorite Life Style

トヨタホームの家づくり ~企業理念・事業姿勢編
「未来の安心」まで支えるトヨタグループの総合力



トヨタホームの独自の技術「鉄骨ラーメンユニット構造」により実現する大開口の家。構造体が強靱だからその大空間だが、将来的な間取り変更まで容易になる点も見逃せない。

トヨタホームの家は、なぜ「長寿命」なのか。

鉄骨ラーメンユニット構造は、住宅建築だけでなく、構造体の要となる「鉄」そのものへの知見の集積によって初めて生まれたものだ。素材としての品質の向上は当然だが、その背景には溶接や電着塗装などの周辺技術も含め、鉄を研究し尽く

**「長寿命」の決め手は
品質力・保証力・企業力
による安心**

世界でも指折りの「モノづくり」のリーダーの一角へと成長した「トヨタ」グループ。自動車を筆頭に、各社はいずれも最先端の技術を有しているが、その住宅事業を担うのが「トヨタホーム」だ。多くの場合、住まいを支えるための壁や柱梁などによって空間的な制限を受ける。だが、同社の「鉄骨ラーメンユニット構造」は、空間的な制限から解放された「大空間の住まい」を実現するという大きな特徴を持つ。生活シーンを思いのままに描ける間取りの自由度の高さは、ライフスタイルの変化の壁をも超える。最近では、年齢や家族構成の変化によって、「住まい方を変える」のが一般的となってきたが、高強度の鉄による大開口の住まいは将来的な間取りの変更にも柔軟に対応できることから、需要が高まっているのだ。

鉄は、トヨタグループの出発点でもあるだけに、そのこだわりは徹底している。たとえば、防錆などは好例だ。高温多湿な日本であるだけに、錆への対策は部位によって処理を使い分けなければならない。複数の技術を併用しつつ、必要であれば2重処理まで行うという。鉄骨の裏側や小さな部品まで、くまなく「完璧」を目指す姿勢は、さすがトヨタグループと唸らされるレベルだ。

素材が本質的に持つ特性を発揮させるには、建築工程の管理も重要だ。トヨタホームでは、全体の85%をトヨタの生産工場で製造するというスタイルを採用している。これは、構造体や断熱材などの材料が、雨などの影響で劣化することを防ぐための配慮。確かな生産技術に加え、不確実性を徹底的に排除することによって、より安定した品質の確保につながるわけだ。同社の企業理念や事業の礎を引き継いだプロフェッショナルな人と技術は、「トヨタホームとうほく」が展開する県内4か所と福島県内2か所のモデルハウスで見ることが出来る。「オーナー様の笑顔」を第一に「コンセプトに掲げる家づくりへの想い」が体感的に伝わる場なので、ぜひお出かけを。



トヨタホームとうほく株式会社
TEL.022-371-3771
住所/仙台市泉区泉中央1-33-4

宮城に4カ所、福島に2カ所の展示場は、こだわりのプランやインテリアをそれぞれ引き出したモデルとなっている。



泉ハウジングパーク紫山展示場
TEL.022-342-7581
住所/仙台市泉区紫山1-70-1



エコノハ展示場
TEL.022-254-3905
住所/仙台市宮城野区中野3-7-2



石巻展示場
TEL.0225-98-5478
住所/石巻市恵み野3-1-2



なとりりんくう展示場
TEL.022-383-0082
住所/名取市社せきのした1-1-3



ハウジングパーク郡山南展示場
TEL.024-947-8511
住所/郡山市安積町荒井字南千保8-2



ハウジングプラザいわき展示場
TEL.0246-58-0031
住所/いわき市小名浜金成字砂田10-1

